

「褒め褒め大作戦」で自己肯定感アップ

教頭 本間 智英

右の図を、連絡帳でご覧になったおうちの方もいらっしゃると思います。ご覧になったおうちの方は、お子さんを褒めてくださいましたか？ これまでは、職員が書いた子どものよさを掲示するだけでしたが、今年度から保護者の皆様にもお知らせするようにしました。

なぜ、このような取組を始めたかという、子どもたちの自己肯定感をより高めたい、と考えたからです。

自己肯定感とは、「自分に対する評価を行う際に、自分のよさを肯定的に認める感情」です。

国の教育再生実行会議第十次提言「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上」（平成 29 年 6 月 1 日）の中に、以下のような考察があります。

自己肯定感が高い方が、

- 「挑戦心」「達成感」「規範意識」「自己有用感」（人の役に立った、人から感謝されたといった感情）に関する意識が高い。
- 「自分には自分らしさがある」「勉強に関する意識」「体力に関する意識」が高い。
- 「長所」「主張性」「家庭への満足度」に関する意識が高い。
- 「努力しても報われない」「日本は競争が激しい社会である」と思っていない。



また、自己肯定感の高さには、子どもころの「褒められた経験」がより強く影響しているという調査結果（「子どもころの体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究」国立青少年教育振興機構）も出ています。

そこで、保護者の皆様にはお願いです。「褒め褒め大作戦」にご協力ください。お子さんの連絡帳に上記のようなものが貼られていたら、ぜひ、お子さんを褒めていただきたいのです。

《褒め褒め大作戦のイメージ》

- ①職員は、その日に見つけた子どものよさをその場で褒め、付箋に書きます。（褒め①）
- ②翌日の朝の放送で全校に紹介します。
- ③付箋は児童玄関に掲示し、付箋のコピーを子どもの担任に渡します。
- ④子どもの担任は付箋を連絡帳に貼って褒めます。（褒め②）
- ⑤子どもは連絡帳をおうちの人に見せ褒められます。（褒め③）
- ⑥翌日、担任は子どもに連絡帳を見せた時のおうちの方の様子を聞き、「おうちの方も褒めてくれてよかったね」と、再度、褒めます。（褒め④）



つまり、一つの行いで何度も褒められる状況を作り出していきたいのです。成果がすぐに表れる取組ではないかもしれませんが、ご協力をよろしくお願いいたします。